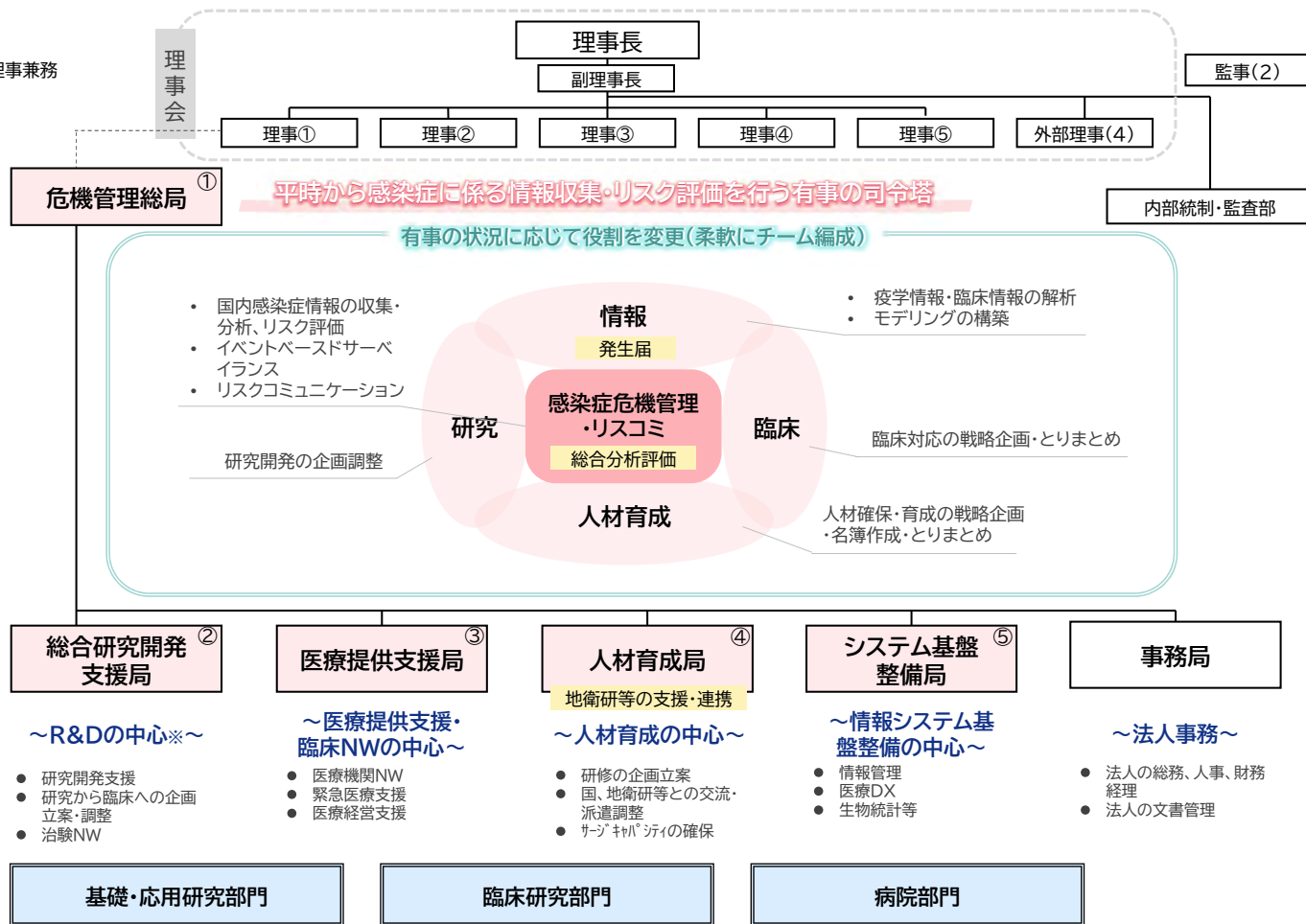


① 平時（準備期）

統括庁・厚生労働省と共に体制整備を行い、
有事に備え、感染症に係る情報収集・リスク評価を実施

※ は理事兼務



※既存の体制を強化し、研究開発力を向上させることを前提とする。

新機構における業務と対応フロー(イメージ)

危機管理総局

平時（準備期）

統括庁・厚生労働省

連携

有事に備えた体制整備・訓練の実施

危機管理総局

人材育成局

- 政府行動計画を踏まえ、新機構の行動計画等の策定
- 政府、地衛研、医療機関等と連携した定期訓練の実施
- 新機構内外の有事のサージキャパシティの確保(名簿づくり等)※医療提供支援局の医療機関NWも活用

《通常業務を通じた有事に対応しうる体制整備》

総合研究開発支援局

医療提供支援局

人材育成局

システム基盤整備局

- 研究開発支援
- 国内外の研究開発ネットワーク/臨床試験ネットワーク
- 医療提供支援
- 医療機関ネットワーク
- 人材育成(研修の企画立案)
- 地衛研等との交流・派遣調整
- 情報システム基盤整備
- 医療DX等の推進

モニタリング

海外ネットワーク

学術論文(疫学・臨床)

“X”等のSNSやメディア等の情報

危機管理総局

情報収集・リスク評価

- 国外の流行状況・流行状況リスク評価
- 国内外の治療薬等の開発マップ
- 新興感染症のリスク評価(病原体、感染経路、感染力、重症化度等)
- イベントベースドサーベイランス

定期報告

統括庁
厚生労働省

情報収集・リスク評価を継続

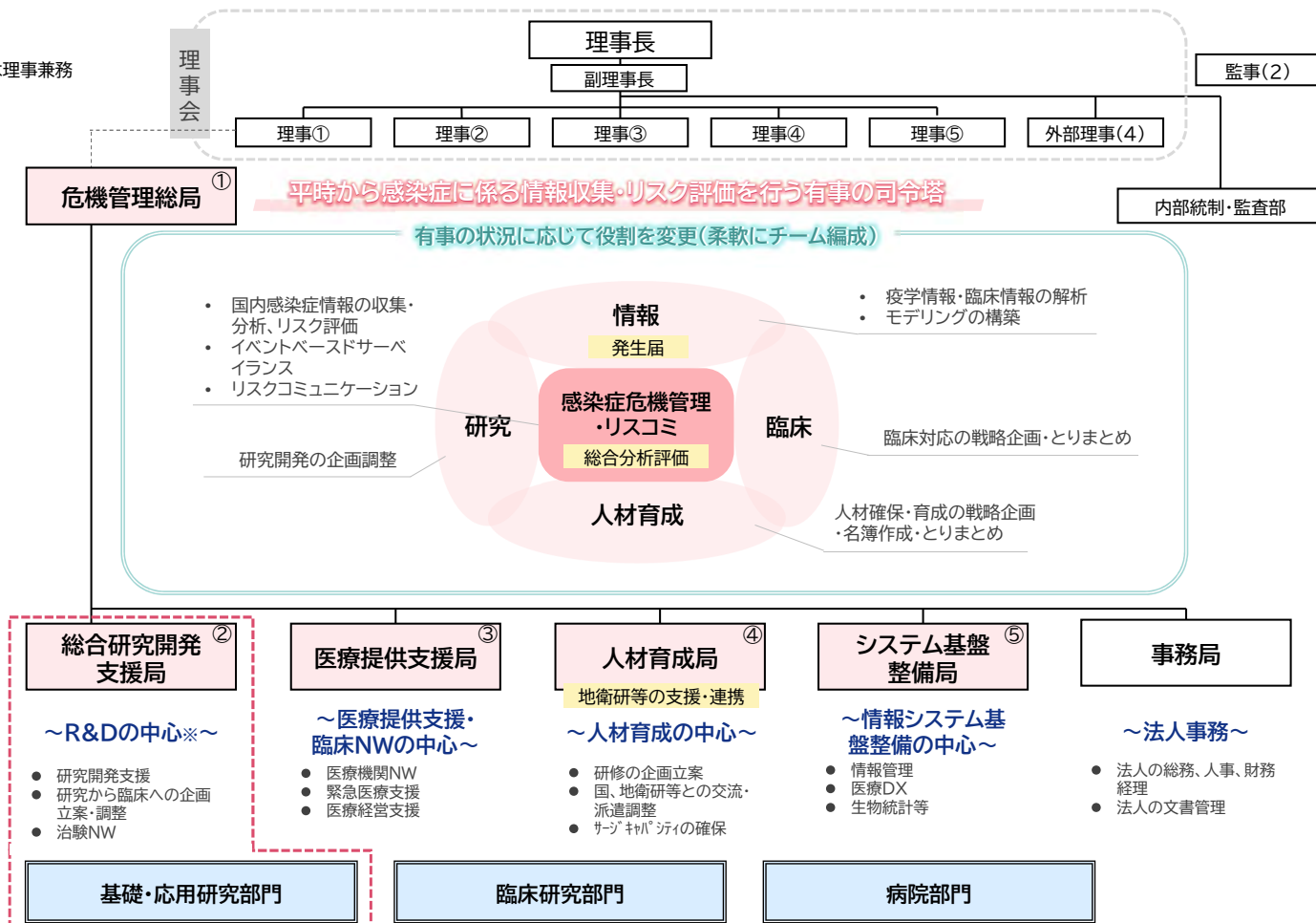
有事に備えた体制づくり

情報収集・リスク評価

① 海外発生期・国内発生早期：探知

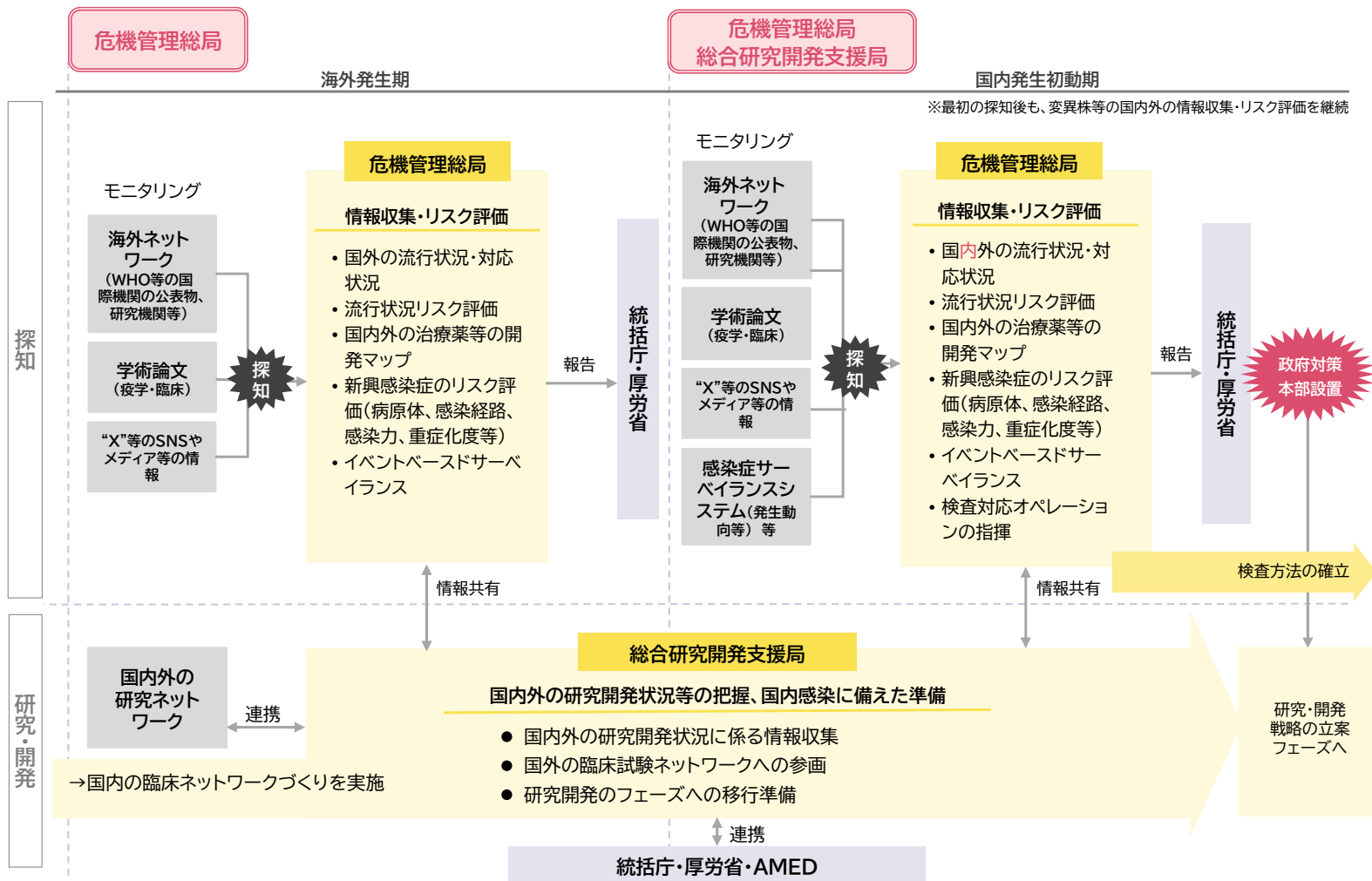
国内外の感染症の情報収集、リスク評価を行い、
統括庁と共に政府対策本部の設置要否を検討

※ は理事兼務



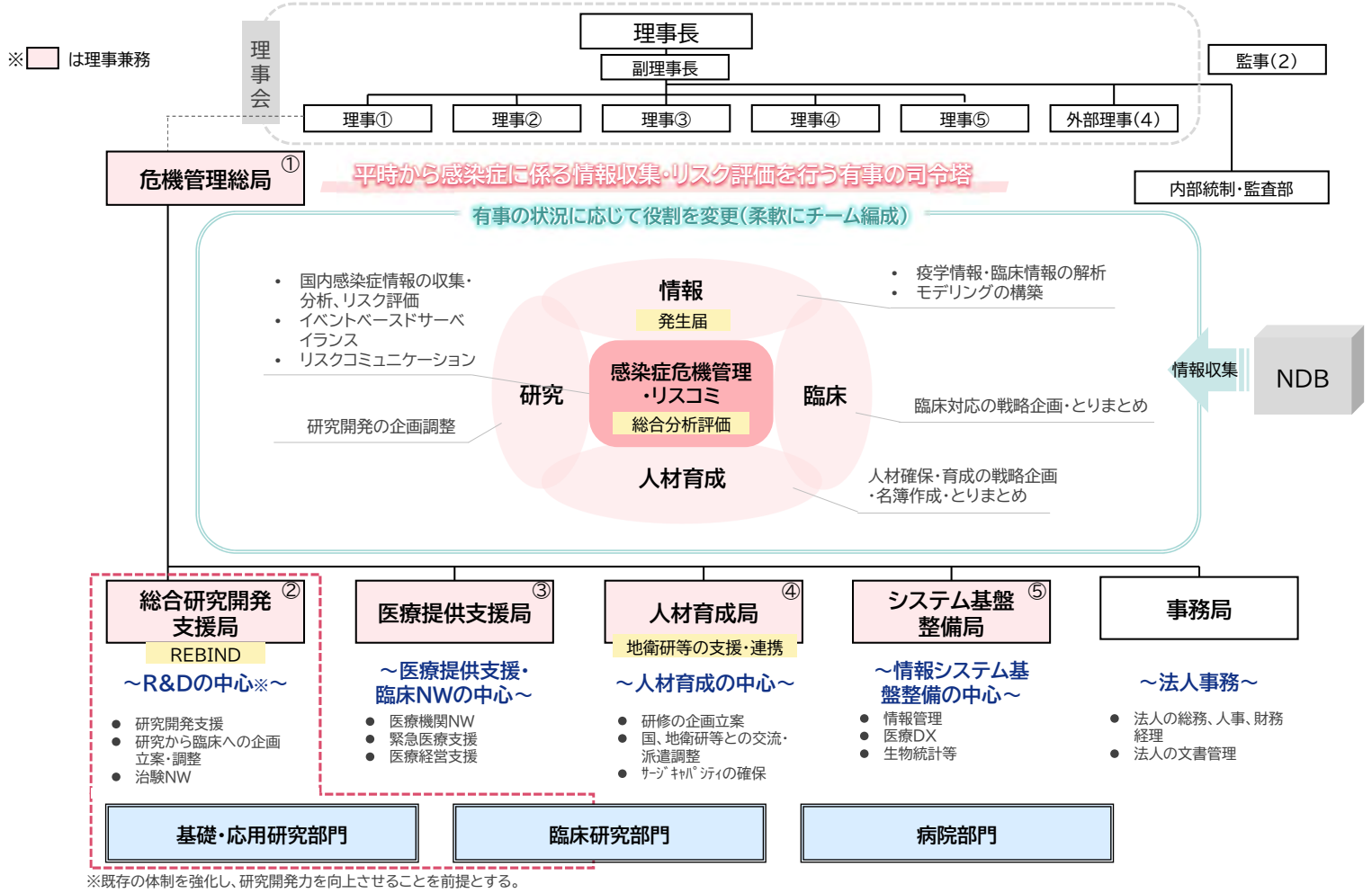
※既存の体制を強化し、研究開発力を向上させることを前提とする。

新機構における業務と対応フロー(イメージ)

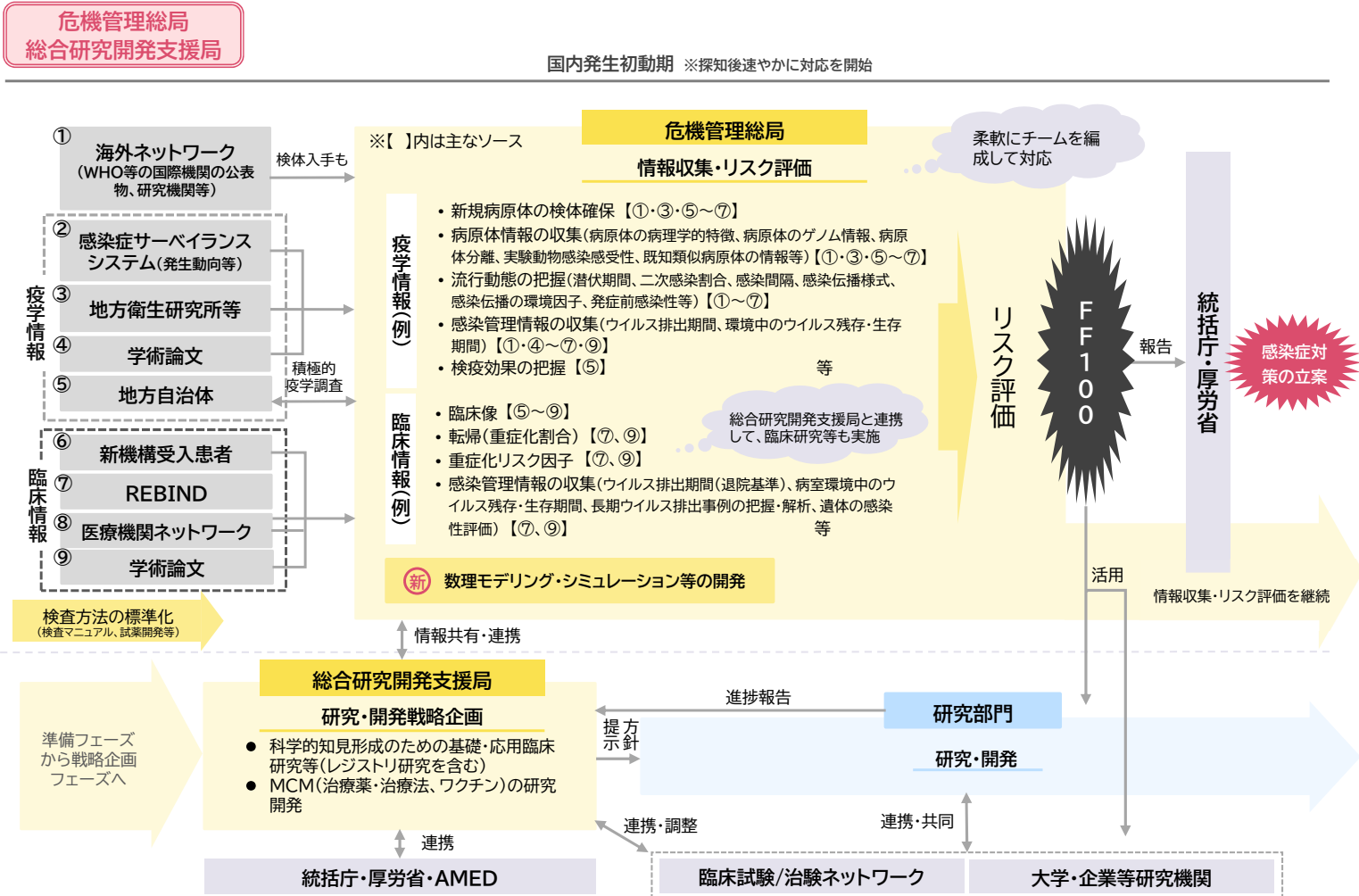


②国内発生早期：FF100

疫学及び臨床に係るエビデンスを収集、科学的知見を提供し、
厚労省と共に感染症対策の立案や治療薬等の研究・開発を推進



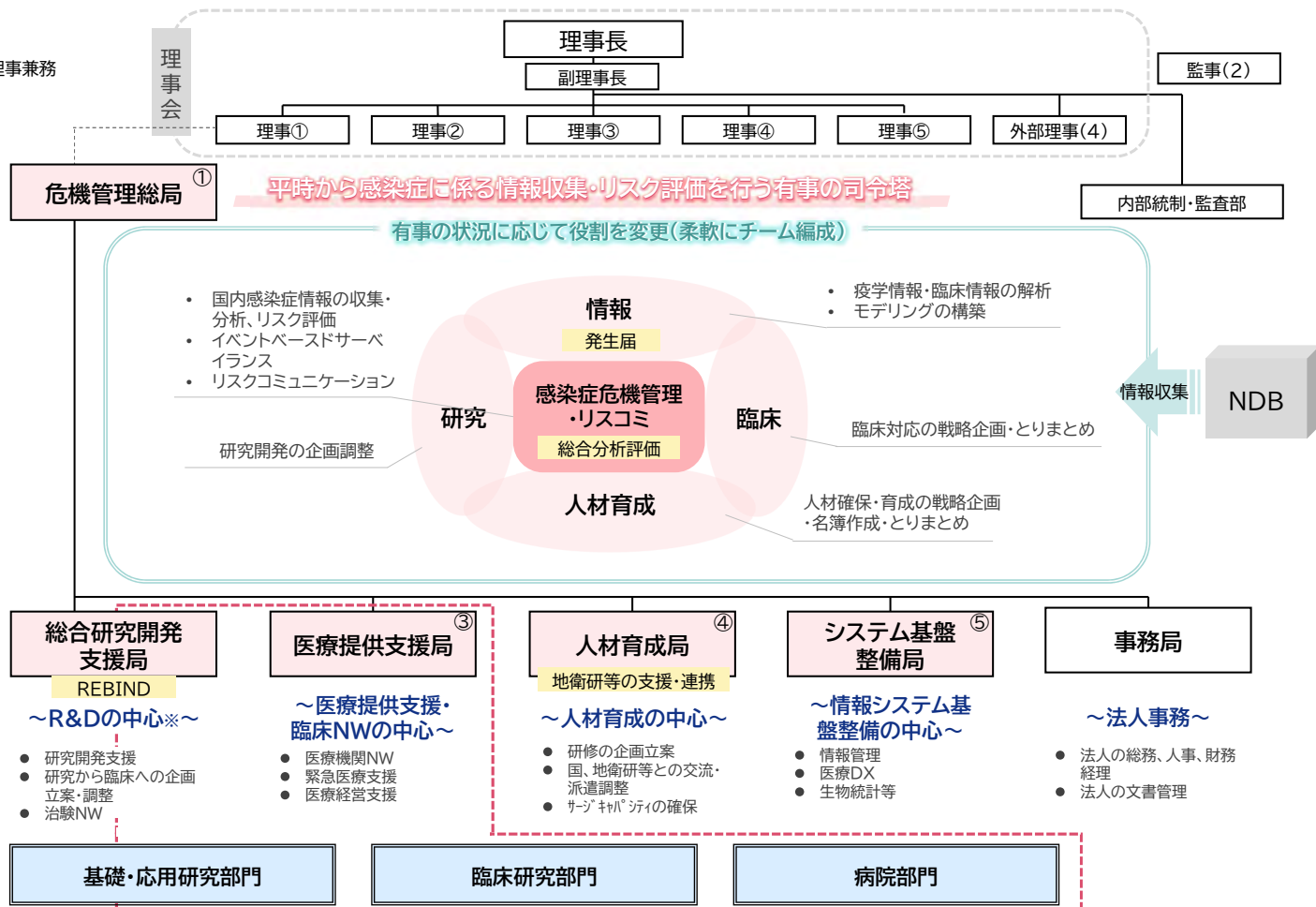
新機構における業務と対応フロー(イメージ)



③国内発生早期～感染期：医療提供

臨床に係る科学的知見を提供し、
地域の医療機関と共に効率的・効果的・重点的な医療を提供

※ は理事兼務



新機構における業務と対応フロー(イメージ)

危機管理総局・医療提供支援局・総合研究開発支援局

国内発生早期

国内感染期

危機管理総局

臨床対応等の科学的知見のとりまとめ

- 「診療対応の手引き」の作成
…専用病棟の必要性、平均入院期間・退院目安、個室管理の必要性・多床室の運用方法、特別な配慮が必要な基礎疾患の類型化、ICU管理が必要な患者の状態像、退院後に次の患者受入に要する期間、病棟切り替えに要する標準日数、夜勤看護士の複数病棟兼務の可否、救急搬送を要する自宅療養者像 等
- 都道府県毎の感染症流行状況(流行フェーズ)
- 「長期入院患者に対するリハビリの手引き」、「社会福祉施設等における対応の手引き」、「検査の手引き」等の作成 等

適時
報告・
連携

統括庁・厚労省

- 各地域の医療機関等における感染症対応/臨床対応の均てん化
- 医療提供体制の検討

医療提供支援局

新機構の医療提供、地域医療機関の支援

受入患者の
臨床情報等

科学的知見
の共有

臨床対応等の
均てん化

サージキャパ
シティ調整等

連携・支援

臨床部門

感染症対応医療機関としての医療提供

サージキャパ
シティ派遣

職員派遣等による技術支援等

地域医療機関ネットワーク等

効率的・重点的な
医療提供

総合研究開発支援局・研究部門

国内発生早期から継続して研究・開発を実施

※研究・開発の進捗状況や、変異株の発現等に伴い、適宜戦略を見直す

医療提供

研究・開発